

こどもまんなか社会実現に向けた取り組みについて

○子ども向けウェブサイト あつまれ八尾っ子！！ (<https://atsumare-yaokko.jp/>)

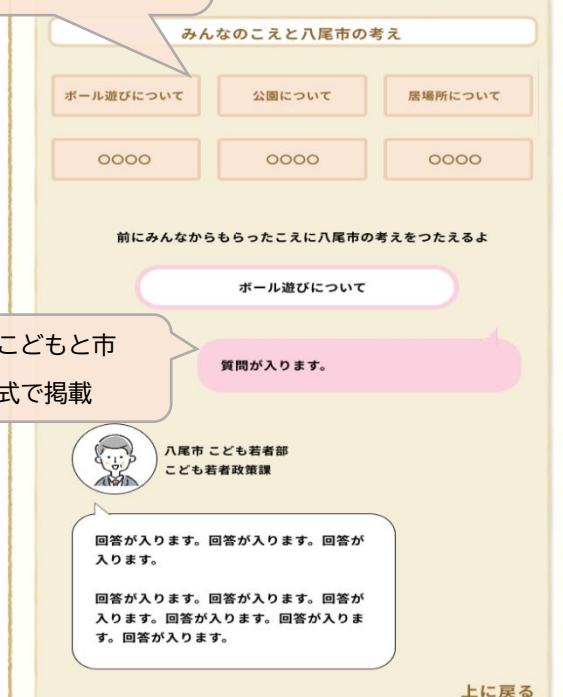


■各種実績

- ・サイトアクセス数※ 45,447件
- ・こどものこえ投稿数※
 - (常設型) 154件
 - 自由意見欄において、もっとも多かったジャンルは公園・ボール遊び関連
 - (期間設定型)
 - R7.12 いじめ問題についてのアンケート実施（こども・いじめ何でも相談課より依頼）
 - ⇒今後も庁内におけるこどものこえを集めるツールとして活用を予定
- ※R8.1末時点の集計

■こどものこえに対するフィードバックについて

見たい項目をクリックすると
該当箇所へ画面がスクロール



意見と回答をこどもと市
職員の会話形式で掲載

こどもたちが自分の意見を聞いてくれていると
感じる事が出来るようにこどもの意見や要望
に対して市の考え等をフィードバックします

○フィードバック方法

- ・ウェブサイト内のフィードバックページに掲載
- ・こどものこえ投稿ページにリンクバナーを作成
- ・こどもたちが見やすい表示、わかりやすい言葉遣いや表現を用いて記載
(文字の大きさ、フリガナの使用、操作性)

○意見、要望に対する回答

- ・投稿された意見、要望をジャンル別に分類。
- ・各ジャンルの意見、要望を集約したうえで、
関連する担当課へ回答を求めます

<掲載イメージ>

○こどもまんなか社会実現事業



- ・計画の策定過程で集めたこどもの意見で多かった「若者の居場所」「ボール遊び」をテーマにこども自身が企画・提案することで実現する事業を実施
- ・参加者は概ね高校生相当年齢から30歳未満の者で、「ボール遊び」のテーマでは実施の過程において、義務教育課程の参加者を加える
- ・今後は下記日程にてワークショップ（WS）を行い実施結果等を踏まえ、テーマごとのまちづくり提案に係る企画書を作成
- ・事業の検証や市の意見反映の取り組みをもとに、こどもの意見反映の仕組みを検証

【事業経過】

- WS第1回 11/8：参加者顔合わせ、事業趣旨説明、アイデア発散、具体化
 - WS第2回 「ボール遊び」11/15「若者の居場所」12/20：アイデア整理、実現に向けた取り組み
 - WS第3回 「ボール遊び」12/20「若者の居場所」1/24：テーマ実現
 - WS第4回 2/7：まちづくり企画書作成・成果報告会
- 他：「ボール遊び」11/15：こどもへのアンケート実施 1/27：成果報告会に向けたオンラインミーティング

【テーマ実現】

★「ボール遊び」



※参加者と義務教育課程の子どもみんなでドッチボール



※WSで出した意見で作った休憩スペース



※実現した後に参加した子どもにアンケート



※実現した後に振り返りを実施

★「若者の居場所」



※カードゲームを参加者で楽しみました



※映画上映会も実施



※一番盛り上がったビンゴゲーム



※実現した後に振り返りを実施

【成果報告会】



※参加者で意見を出しながらまちづくり企画書を作成



※作成したまちづくり企画書を発表



※こどもまんなか社会実現事業に参加してくれたメンバーのみなさん

【まちづくり企画書】

★「ボール遊び」



【現状】ボール遊びをしたいけどできない

【課題】

子どもの遊び場不足、安全面・トラブルの配慮

【企画の目的】

子どもが安心して遊べ、地域の人とも共存する

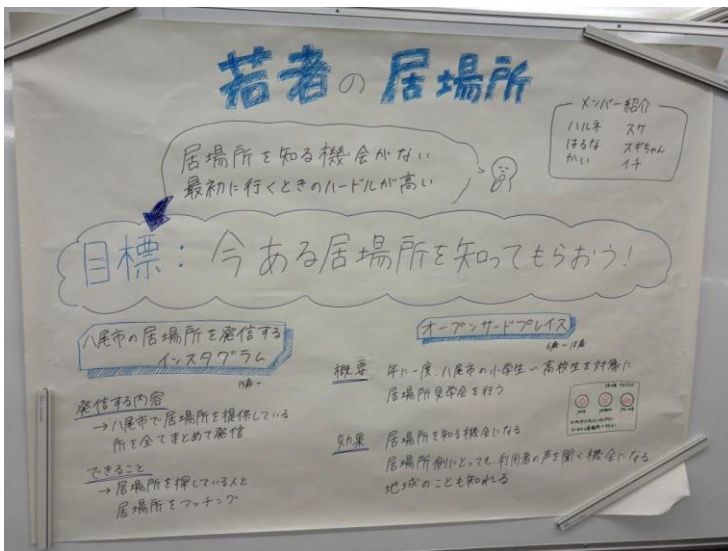
【企画概要】

①設備、②地域とのかかわり、③ボール貸出

【期待される効果】

安全面強化、地域住民との交流の増加、
子どもの遊び不足の軽減、等

★「若者の居場所」



【現状と課題】

居場所を知る機会がない、
居場所に最初行くときのハードルが高い

【企画のめざす姿】

今ある居場所について知ってもらう

【企画概要】

八尾市の居場所を発信する Instagram の開設、
八尾市の小学生から高校生(6~18歳)を対象に
したオープンサードプレイス(居場所見学会)の実施

【期待される効果】

居場所を知る機会になる、
居場所側にとっても利用者の声を聞く機会になる、等

◎まちづくり企画書の活用

- ・「ボール遊び」チームで作成したまちづくり企画書を公園整備事業担当課へ提供し、今後の公園整備に活用
- ・「若者の居場所」チームで作成したまちづくり企画書を「多様なこどもの居場所づくり」を推進する庁内所属長会議に活用

◎若者の社会参画

- ・こどもまんなか社会実現事業に参加をした若者が、こどもの声の実現に取り組む中で、自分の意見を伝え、企画に反映される手応えや実感を得るとともに、子ども子育て会議の委員や市に対する「まちづくり企画書」を提案し、大人に想いを受け止めてもらう貴重な機会を持つことができた。

参加者の中からは、市のまちづくりに参画したいと意欲を高め、審議会委員の公募にまで応募する若者が出来たのも、本事業の大きな収穫となった。